

4 分析結果の概要

(1) 論理的な文章（大問〔一〕）を読む力について

上田紀行『生きる意味』から出題した。グローバリズムの依拠する「効率性」を離れて、文化や人間の多様性に「生きる意味」の豊かさを見出すことが文明的課題であるという問題提起の文章である。空欄に適語を補充する問題や、指示語の指示内容を選択する問題を出題したが、ともに全体の論理構成を踏まえて解答する力が要求されるため、中・下位層の正答率が低かった。文章の構成や展開を確かめ、的確に読み取らせる指導が必要である。

(2) 文学的な文章（大問〔二〕）を読む力について

桂望美のぞみの小説『ボーイズ・ビー』から出題した。少年と孤独な靴職人の老人との心の交流を描いた小説である。昨年同様、上・中位層と下位層の正答率に大きな開きがあった。下位層においては小説を読み慣れていないため、情景や行動の描写を手掛かりに読解する力が十分に養われていないと推測される。まとまった量の文章を読ませる指導が必要である。

(3) 国語基礎力（大問〔三〕）について

設問は、手紙文と定型表現、四字熟語、副詞の用法、文節の区切り方、漢字の読み書きについて出題した。国語基礎力に関しては、抽出校を対象に設問中にある語句の使用状況等に関する事後調査を実施して分析に活用したところ、設問において正答率の低い語句も、日常的に接する経験はあるという傾向が見られた。授業その他の場で、接したことのある語句を活用する機会を増やし、使いこなすことができるように指導したい。ただし、伝統的な季節や時候を表す言葉については知識が乏しく、生活の中で使う体験が少ないことが分かった。高校の授業において、知識を身に付けられるよう指導することが必要である。言語活動を通じて思考・表現の能力を高め、知識の定着を図ることができるよう指導する必要がある。

(4) 古文（大問〔四〕）を読む力について

『枕草子』の日記的章段から出題した。歴史的仮名遣いの読み方や基本的な単語の意味については全体的に良く理解しているが、登場人物が多く、会話の主体や人間関係が把握しにくいため、上位層と中・下位層とで正答率に差が付いた。主語を書き込むワークシートなどを作成し、前後の文脈から登場人物の行動を読み取れるよう指導していく必要がある。